

平成28年2月15日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 野藤 薫



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成27年10月28日(水)～10月30日(金)

2. 視察先及び研修テーマ

(1) 新潟県糸魚川市 糸魚川市役所
研修テーマ 「知音都市交流の取組み」について

(2) 長野県中野市 中野市役所
研修テーマ 「知音都市交流取組み」について

3. 参加者 足立 豪 岡野克俊 野藤 薫 上野 茂
布施賢司 岡本正友 道下文男 田畑敬二
平石 誠 西田清久 澁谷幹雄 牛尾博美
原田義則 計13名

4. 調査経費 ¥66,546 円
(内訳) バス代 43,846 円
宿泊費 22,400 円
入館料 300 円



5. 調査研究活動の概要

(1) 新潟県糸魚川市、長野県中野市

<視察に至った経緯>

浜田市（旧金城町）、新潟県糸魚川市、長野県中野市、長野県長野市の4市は、「カチューシャの唄」知音都市交流として交流を続けている。なぜこの4市が交流を始めたのかといえば、日本の新劇運動の先駆けの一人として知られる、島村抱月が浜田市（旧金城町）出身であったことから始まる。島村抱月は、1913年劇団・芸術座を結成し、トルストイの小説を基にした新劇「復活」の舞台が好評で全国各地で興行が行われた。その劇中歌「カチューシャの唄」は大ヒットとなり、日本初の歌謡曲として知られているところである。

その「カチューシャの唄」を歌ったのが、長野市出身の「松井須磨子」であり、その唄を作詞したのが「島村抱月」と新潟県糸魚川市出身の「相馬御風」であり、作曲は長野県中野市出身の「中山晋平」ということで、この4人の出身地が「カチューシャの唄」をご縁に都市交流を始めたということである。

そこで、市町村合併10周年を期に、交流をしている都市を訪問し、これまでの活動内容等の情報収集を実施し、今後の活動に関しての意見交換ができればとの思いで、今回の視察を計画したところである。

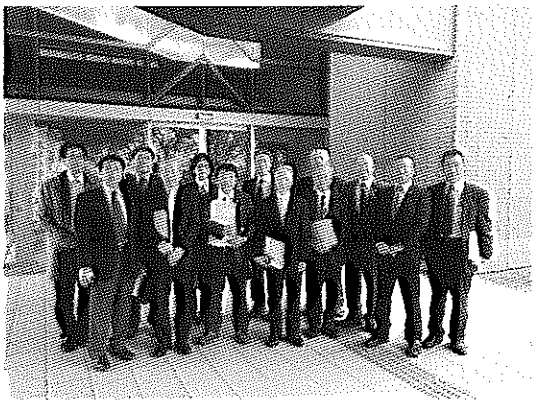
<視察内容>

【知音都市交流の歩み】

- 平成2年から毎年実務者・広報担当者会議を開催し、開催場所は4都市の持ち回りとしている。
- 毎年10月に開催される、「真田十万石まつり」において、4年周期で大名行列に参加し、各都市はそれをサポートしている。まつり終了後は、4都市で交流会を実施し、その場には、真田家当主も毎回参加されている。

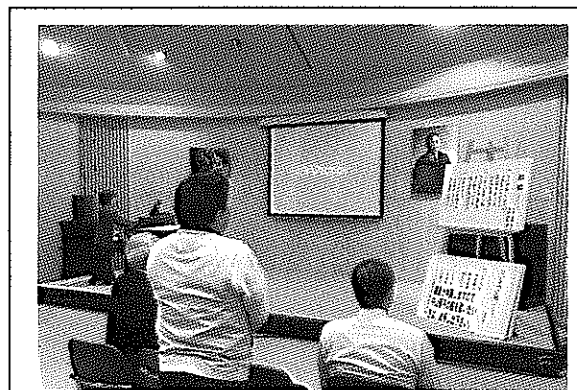
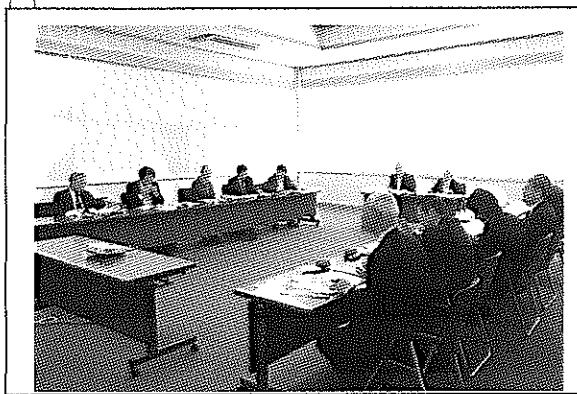
○ 【糸魚川市の取組】

- 知音都市交流において、平成2年に4都市の実務・広報担当者会議を皮切りにそれぞれの交流が活発化した。平成4年には青年会議所が浜田市（旧金城町）を訪問し演劇を見学するなど交流を深められた。平成12年5月には「カチューシャの唄」知音都市交流市民の会が設立され、市民の中にも交流の輪が広がった。特に、中野市や長野市とは距離が近いこともあり、それぞれの都市で開催される、祭やイベント等に参加している。
- 都市交流のきっかけとなった、相馬御風については、市役所に隣接した場所に「歴史民俗資料館（相馬御風記念館）を開館しており、御風の蔵書や資料を多く展示し市民や観光客に紹介している。



- 【中野市の取組】
- 中野市においては、平成 10 年 3 月「中野市市民都市交流会フレンズ」が設立され、交流の中心となっている。この会の活動として、
- ・カチューシャの唄に関する先人の研究
- ・4 都市交流の計画、地域活性化の研究
- ・交流情報の受発信と広報
- ・4 都市交流団体としての事業実施
- ・会員相互の友好連携 が挙げられる。
- 現在、特に力を入れていることは、
- ・組織育成事業(会員拡大)
- ・4 都市市民交流のための情報発信のためのホームページやブログの開設と運用
- ・先人を知る学習活動 ということである。
- 今後の活動の方向性として、交流 4 都市の情報発信や、各都市の活性化や町づくり推進への寄与としている。

- 都市交流のきっかけとなった、中山晋平については、晋平の生家近くに中山晋平記念館が開館しており、館内には、生前の写真や作品集が展示されている。また、彼の作品が視聴できるコーナーやビデオコーナーも設けられており、より親しみやすくなっていた。



《感想》

合併以前の金城町時代から交流を続けている長野市、糸魚川市、中野市を初めて訪ねた。郷土の偉人、島村抱月の縁が取り持つ交流である。松井須磨子、相馬御風、中山晋平の関わりはその生地を尋ねてわかる。

それぞれ資料館が有り、四人の関わりや生前の交流、遺品等が展示し紹介してあった。

この知音都市交流をさらに深めて、文化や産業、観光交流へと発展させていくことの大切さを感じた。

それぞれの訪問地では心温まる歓迎を受け、次回浜田市での再会を誓って帰途についた。